

静秋譜

凭りてをる老松の幹ひえびえと向つ杉原片日照りせり

藟^は棒^がの尖端^{さき}に小鈴をつけむ小禽来て宿らば忽ち^へ呼^る鈴とならむか

わが眼はや十尺^{とさか}前方はおぼつか^あな藟^は棒^がの小鈴の鳴りをし思ほゆ

一枚の木の葉の如くぶらさがり繡眼兒は藟^はに驚かずをり

眼の縁に白きテープを巻きてをるこの小禽はも掌^おに愛し

(昭和十五年「山桜」十一月号)